公共図書館による展示

テーマ展示「ウィキペディアタウン～街歩き×地域の魅力発信×情報発信～」

令和元年度の公共図書館部会のテーマ展示は、「ウィキペディアタウン」に関する展示を行いました。

ここで言う「ウィキペディアタウン」とは、街歩きをして得た情報をもとにウィキペディアを編集するイベントのことを指します。

近年では、ウィキペディアタウンを図書館が主催して行うこともあり、図書館における新しいイベントとして注目されています。埼玉県でも、2018 年 11 月 25 日に埼玉県立熊谷図書館主催の「ウィキペディアタウン in 熊谷」が実施されました。

今回の展示は、ウィキペディアタウンというイベントにもっと興味を持ってもらうために企画しました。

◆ 準備・運営

公共図書館部会の実行委員 2 名で準備と運営を行いました。

準備は「ウィキペディア」と「ウィキペディアタウン」に関する知識を知ることから始めました。実際に「ウィキペディア」の記事を作成するための研修などに参加し知識を深め、展示パネルの作成を行いました。

◆ 展示

ウィキペディアタウンの概要や、昨年行われた「ウィキペディアタウン in 熊谷」の様子について、パネル展示で紹介しました。

そのほか、「ウィキペディアタウン in 熊谷」で配布した街歩き用の地図や、記事の編集に役立つ郷土資料のリストなども展示しました。

また「ウィキペディアタウン in 熊谷」の成果である、イベントで編集した熊谷市内の寺社・名所のウィキペディア記事について、それぞれの記事の URL を QR コードで読み取れるようにして紹介しました。

◆ おわりに

「ウィキペディアタウン」というイベントはあまり知られていないので、今回の展示は興味を持ってもらえるか不安に思っていたのですが、見てくださった方からは「次は県内でいつ行われるのですか」などと尋ねられることが多くありました。

配布物をあまり用意しなかったため途中で無くなってしまったことや、ノートパソコンを用意して実際のウィキペディアをその場で閲覧してもらうなど、もっと関心を持ってもらえる方法を考えるべきだったことなど、反省点・改善点を挙げればきりがありません。今後の展示の参考にしたいと思います。

お忙しい中ご協力いただきました県内公共図書館の皆様、また展示を見てくださった参加者の皆様、ありがとうございました。

（記録：埼玉県立久喜図書館　神田 卓臣）

須賀しのぶ先生著作展示

須賀しのぶ先生の多彩な著作の中から、デビュー作と最新作を含む 40 点、さらにインタビュー記事が掲載された雑誌 3 点をご紹介しました。

展示スペース左のテーブルでは、2019 年 11 月 21 日に発売された最新作の『荒城に白百合ありて』を中央に配しました。その隣にデビュー作でありコバルト・ノベル大賞読者大賞受賞作である『惑星童話』を並べ、さらにセンス・オブ・ジェンダー賞大賞を受賞した『芙蓉千里』シリーズ、大藪春彦賞を受賞した『革命前夜』、高校生直木賞を受賞した『また、桜の国で』などの作品を、内容紹介の POP と共に展示しました。

右のテーブルでは、代表作の一つである『キル・ゾーン』シリーズや高校野球がテーマの作品など、様々なジャンルの作品と共に、雑誌に掲載された須賀しのぶ先生のインタビュー記事をご紹介しました。ここでご紹介できたのは著作のごく一部であり、並べ切れなかった作品は著作リストでのご紹介となりましたが、多くのお客様が来場され、足を止めて作品をご覧になっていました。中には作品を手に取ってご覧になる方もいらっしゃいました。

今回の展示のために、県内 14 館の公共図書館から資料をお借りしました。おかげ様で、須賀しのぶ先生の幅広い著作をご紹介することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

また「図書館の県民のつどい」と同時に、桶川市立中央図書館ＹＡコーナーでも、須賀しのぶ先生の著作展示を行いました。12 月 15 日から翌年 1 月 7 日にかけて、桶川市内で所蔵している須賀しのぶ先生の著作 40 点を、作品紹介の POP と共に展示しました。

著作リストの製作や展示資料を集めることなどに時間がかかり、前日と当日の準備も慌ただしいものとなってしまいましたが、皆様のご協力のおかげで、なんとか展示を作り上げることができました。お忙しい中、展示用資料の貸し出しや展示の準備にご協力いただいた県内公共図書館の皆様に、改めて心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

（記録：埼玉県立熊谷図書館　横田 茜）

ブックケア
＝未来へつながる保存の技術＝

今回で９年目の開催となるブックケア。今年も数多くの方に展示をご覧いただき、また、資料の綴じ体験にご参加いただきました。

展示では、修理の基本知識や技術、材料・道具についての解説パネルと道具類を展示する「保存の技術」のコーナーと、様々な破損パターンの修理の過程を知る「本の修理ビフォー・アフター」のコーナーを設けました。

また、今年は台風による大規模な水害により、全国の図書館で資料の水濡れ被害がありました。そこで、「水濡れ資料を手当てする」と題して、東京都立中央図書館製作の動画「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」の上映や、水濡れの手当を行ったサンプルの展示、水濡れ資料の手当を実際に行うデモンストレーションなどを行いました。

【パネル展示】

＜保存の技術（材料・道具）＞

●修理の基本と材料

①修理の基本

・何度でもやり直せること

・安全な材料を使う

・柔らかく軽く仕上げる

②基本的な材料

和紙（楮）（極薄・薄・中厚・厚４種類），でんぷん糊，混合糊（でんぷん糊２：白ボンド１），白ボンド，麻糸

●本の修理の道具

筆（こしのある平筆），カッターナイフ，定規（金型 30cm），目打ち，製本針，締め板，重し（5kg、漬物石等），樫矢（目打叩き棒）

＜本の修理ビフォー・アフター＞

代表的な壊れの事例４例について、どんな流れで修理するのか過程をパネルで紹介。修理後の現物も並べ、前後で見比べていただくコーナーです。

事例１ 和紙と糊でやぶれを治す

事例２ 和紙の足をつけてページをもどす

事例３ 自立しない本ののどのゆるみを治す

事例４ 絵本をリンク・ステッチで綴じ治す

＜治す技術（修理の基本の技術）＞

●『本の修理きほんのき』

本を長く利用するために気をつけたいこと、道具や材料、基本的な修理方法を、コツやヒントをまじえてご紹介するチラシを配布しました。

※『きほんのき』はウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html

【水濡れ資料を手当てする】

●動画上映「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」（東京都立中央図書館 製作）

●水濡れ資料手当サンプル展示

●水濡れ資料手当デモンストレーション

【体験コーナー＜綴じ体験＞】

●平綴じ（四つ目綴じ）

●リンク・ステッチ

（記録：埼玉県立熊谷図書館　松田 康佑）

読書のバリアフリー資料展

2019年６月読書バリアフリー法が成立しました。この法律は、障害の有無にかかわらず、いつでもどこでも個々のニーズにあわせた読書ができることを目指しています。

子どもの頃は本を読んでもらうのが好きでも、自分で読むのに時間がかかったり難しかったりすると、だんだん読書が苦手になってしまいます。印刷された文字が読みにくい方でも楽しい読書と出会えるよう、今回の展示を企画しました。

＜資料展示＞

◆読む場所がわかる

デジタル資料として、音声と絵と文字を同期させた「マルチメディアデイジー」を、

ノートパソコンとタブレットで展示しました。音声で読まれている文字がハイライトされるので、どこを読んでいるのかが一目で分かります。機器を使わない方法としては、両隣の行を隠して読みたい行に集中できる「リーディングトラッカー」を紹介しました。

◆やさしく読める

スウェーデン語のLättläst（「やさしく読める」という意味）から名付けられた「LLブック」を用意しました。誰でも内容を理解できるようにやさしく短い文で書かれていて、絵や写真、ピクトグラムを使っているものもあります。

◆文字を大きく

大きな文字で書かれた「大活字本」「拡大写本」は、高齢者や弱視の方の読書に役立ちます。今回はポータブルの「拡大読書器」も用意しました。

◆耳や指で読む

耳を使って読書を楽しむものとして、「音声デイジー」を紹介しました。目が不自由な方だけではなく、手が不自由で本を持てなかったり、ページをめくれなかったりする方の読書に役立ちます。また絵や文字の上に特殊なインクで点字などが印刷されている「ユニバーサル絵本」は、目が見える方も見えない方も一緒に楽しむことができます。

◆さわって楽しむ

フェルトなどの布で作られた手作りの「布絵本」を展示しました。ひもやファスナー、ボタンなどを使って絵を動かしたり、取り外したりすることができます。

＜体験＞

◆ロービジョン体験

見えにくさを体感してもらうため、視野狭窄、中心暗点、コントラスト低下の体験メガネを用意しました。文字のサイズや書体が変わるだけで見やすくなることを理解してもらえたと思います。

＜おわりに＞

どうぞ読書を楽しむことをあきらめないでください。多様な読書のために、少しでも役に立つ資料を届けたいと願っています。必要な方が周囲にいましたら、上記の資料をぜひご紹介ください。

（記録：埼玉県立久喜図書館　大島 恵津子）